



シリーズ「砂丘モード」より 1983-93年



「僕のアルバム」より 1935年頃



「ボクのわたしのお母さん」1950年

©Shoji Ueda Office

鳥取県出身の写真家・植田正治（1913～2000）は、砂丘を舞台にした数多くの傑作写真を生み出すなど、世界的にも高く評価されています。家族をはじめ、身近な人々を題材にしたり、詩情の中にさりげなくユーモアを漂わせる作風は、現在も多くの人々を魅了してやみません。本展は植田正治写真美術館の協力を得て、初期から晩年に至る代表作約200点を展覧する初めての本格的な回顧展となります。

ヨーロッパの前衛的な写真に影響を受けた初期を経て、植田は、1930年代以降に「演出」写真に取り組みました。砂丘を巨大なホリゾン（舞台背景）に、植田自身と家族をモデルにした一連の演出写真は、「UEDA-CHO（植田調）」と称され国内外で高い評価を得ています。植田は「被写体との語り合い」をとても大切にしていました。植田の作品には、日々の何気ない事象と丁寧に向き合い、世界と自分との距離を探ろうとする醒めた眼差しと同時に、豊かな詩情が流れています。

## 植田正治写真展 写真とボク

主催／郡山市立美術館  
協力／鳥取県伯耆町立植田正治写真美術館／植田正治事務所  
協賛／株式会社ニコン、株式会社ニコンイメージングジャパン、富士フィルム株式会社、文化堂印刷株式会社  
企画制作／クレヴィス  
会期／平成23年2月5日（土）～3月21日（祝・月）※毎週月曜休館。3月21日開館、翌22日（火）休館。  
開館時間／午前9時30分～午後5時まで  
観覧料／一般500（400）円  
高・大生300（240）円  
（ ）内は20名以上の団体料金  
65歳以上、中学生以下、障がい者手帳携帯者：無 料

植田正治の没後、未整理のネガがまとまって発見されました。その中から妻紀枝夫人を被写体にした未発表写真などから写真集が編纂され、2007（平成19）年『僕のアルバム』として出版されました（植田正治／著 仲田薫子／監修 求龍堂／発行）。本展では植田正治事務所の監修のもと、発見されたネガから16点のニュープリントを制作し、初めて展示公開いたします。

（永山 多貴子）

## 風土記の丘の夏休み

ボクは美術館のある風土記の丘に住んでるウサギ。時々、美術館の駐車場の上的にあるYさんちの畑で野菜をごちそうになったりしているよ。

風土記の丘の雑木林は居心地がいいけど、今年の夏はとて暑かった。美術館ではイギリス人のピアトリクスポーターさんってひとの展覧会をやったみたい。ポーターさんは「ピータービットのおはなし」という絵本の作者で、主人公のピーターはボクたちの仲間なんだって。展覧会にはたくさんひとが来て、いろんなイベントをやったよ。

8 / 1 林望先生の講演会は駐車場がいっぱいだった。リンボウ先生の愛車も駐車場に停まっていたから、ステキな先生をボクたちもそっと見ていたんだ。



7 / 31・8 / 21 おはなし会では、あさが開成高校、須賀川養護学校、郡山第一中学校、郡山第二中学校の生徒さんたちが、いろいろなお話を聞かせてくれたんだ。クイズもあって、あたたかお友達はかわいいプレゼントももらったよ。おはなし会は二回あって、二回目には岩崎京子先生の講演会もあったんだって。

8 / 22 美術館マルシェの日は、一日中にぎやかだったよ。朝から郡山農業青年会議所や郡山農学校、美術館友の会のひとたちが忙しそうに準備していた。カラフルで珍しい野菜なんかもおしゃしに並べられて、とってもおいしそうだったよ。

